

“GACCIMI”

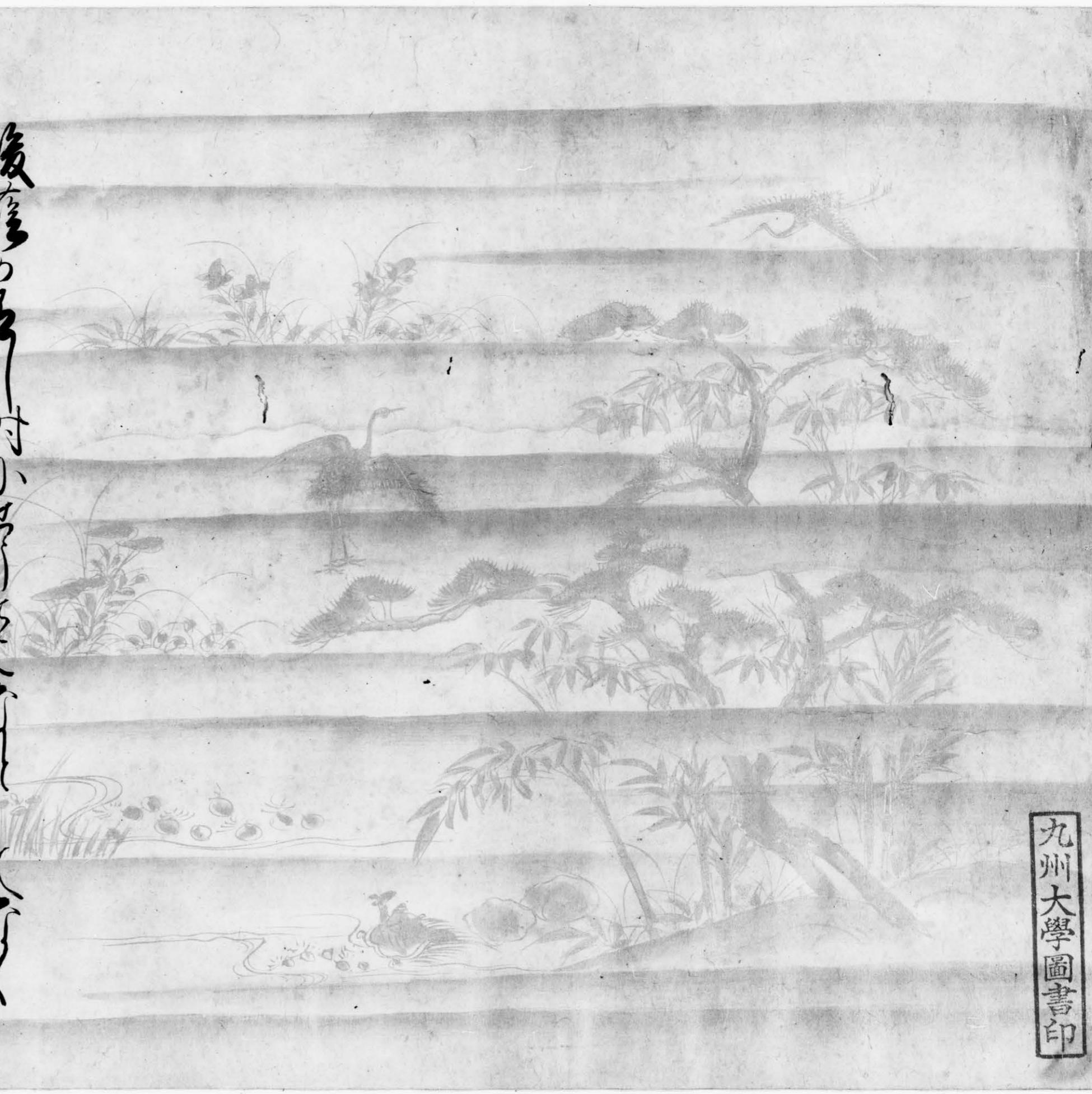


545
9
14



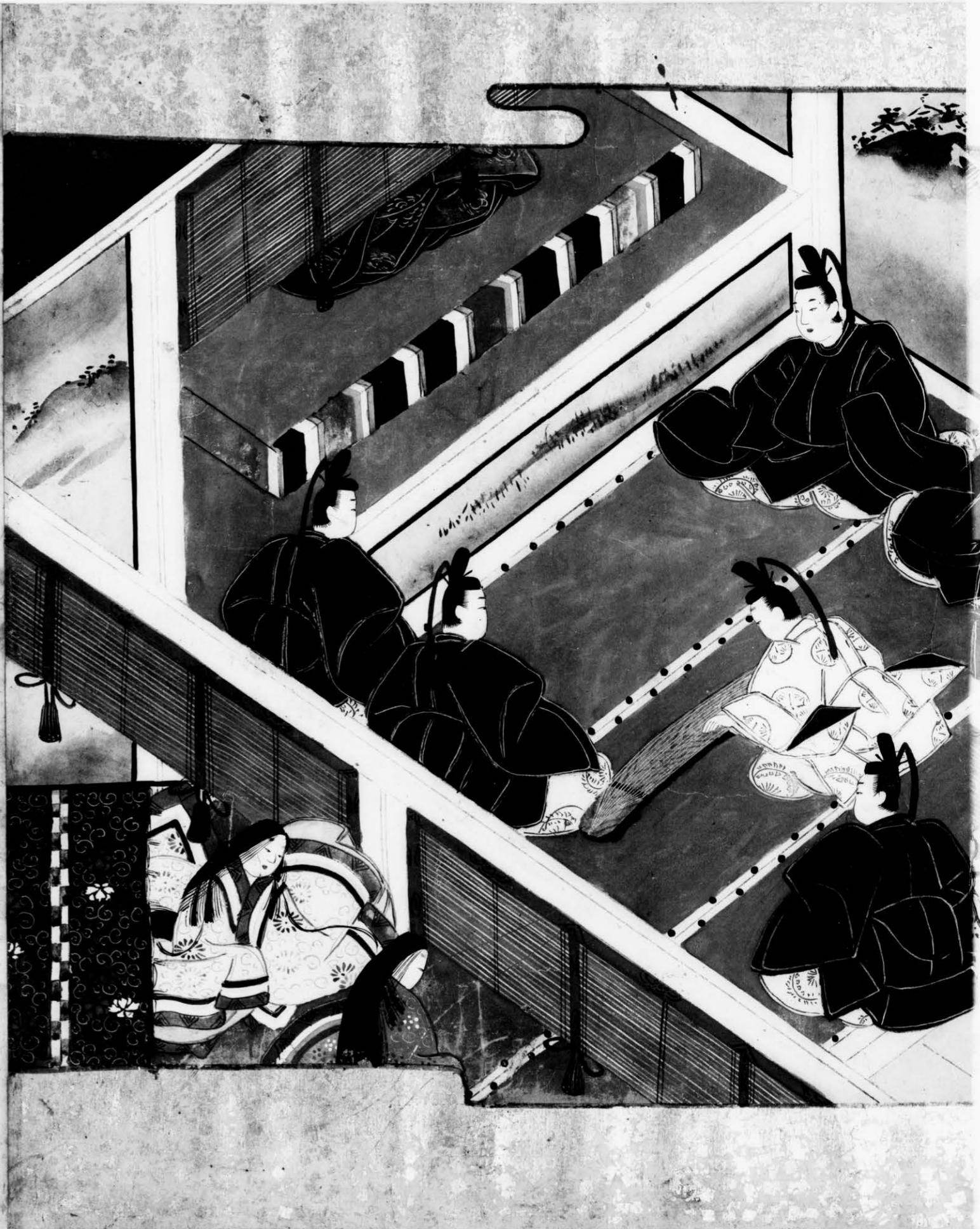
九州大學圖書印

後藤つる 时小也
かて後藤 云あらわすには
其の事は
もとより三代の事か こゝの
事はわざりへどもがゆうとや
り一代の事かへども一母ニモア
シやむすびに付く事のう
かんさへしてやうる事のう
今りうりやうはいふ事のう
れをわらわせまつまつ
あらわす事のう
うきとてすらうきとてすら





うて今すたの朝向伊まゝもとく
今せよ都をぬきむかへられより
至都行みしりとせんとてゆわ
すらはるまことうかとてうにあひと
身ふりまうりと金をとらしの店の處
とひりてませうりまつりにりたりたるもと
不うき馬めもとまきてゆきぬらもと
をみておれやまくしてゆきまく
一年ぶりて八月よみの處下すすいり
がりあすまくえれれやくゆくに
きあすれまくよひやしきものまを
きをうけまくらじくらじてまく
まくまくいとにゆきのやまととまく
まくまくまくまくまくまくまくまく



とてみらうくのまぬを捨てすと
のあにまづくらうとアモリマヌ
ねほきてゆき小川をもと廻る今
そくしてゆき小川をもと廻る今
ほじいわがまゆりかめりておは
たの金人お積みにあらんとて
けゆねが将軍の姿身は一せきなく
ひきぬかみの足あ花木赤くらもの花紋
もじつこじりとあらざり急後この神り
うきのわくとくはく室相りりとて
中ねまくわくとくはく室相りりとて
ぬ一まくわくとくはく室相りりとて
あうとくらうとくすまのとくらうと
くはくとくはくとくはくとくはくとく
まくわくとくはくとくはくとくはくとく
つまくとくはくとくはくとくはくとく
とくはくとくはくとくはくとくはくとく
人種とくはくとくはくとくはくとく
をもとあらむれどこなむわくわくと
おとくわくとくはくとくはくとくはく
印とくはくとくはくとくはくとくはく
ごみのわくとくはくとくはくとくはく



不意の間も一矢にさすがのうと
ひとすくやねえことかまえむ
ゆとすくてもうとまえらすとまう
きつめあゆい体からみつ
きつめあゆい野あゆ小腰のあゆ
はくまくまくとやゆまくまくと
よわかなはくまくまくと
おゆまくまくと
めゆまくまくと
んとのゆまくまくと



に先一筋のとわせて思ふのをきけり

足風(を)かしはるかに風

やさりとすの

風

えんよひにわづかに風

風

枝(枝)にみちまづりんむすびに
うわあわさかく在りたる風や合

風

うららかに風(風)となりて風

風

ゆの間(間)はらはんよなまう

風

ゆの間(間)はらはんよなまう

風

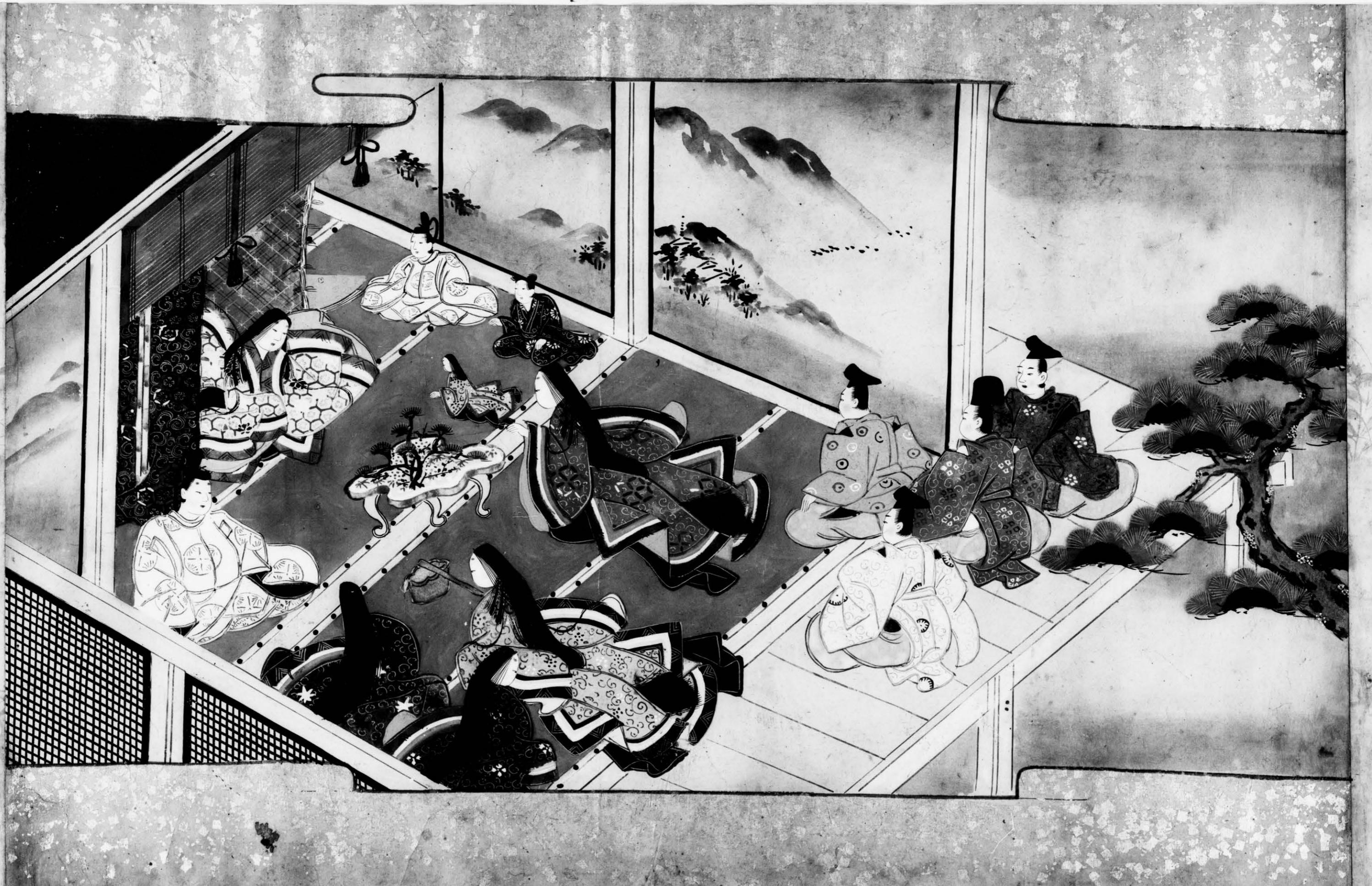
うららかに風(風)となりて風

風

うへてひいとてまつらふ仲よみの悪事
うへて叶ひて出でたりとてかくにあらう
ゆきの事えをいひゆけよあえど
うへてうんと育れまくいよゆと云

やうかとみよの音ひかるす
えいきゆゑをゆくはまえど
之をすりだりけりやうけま
うりつうと育めひよけりと
今おほくよらうんそかくまきて
ぬくまきくわくわくひつもじてたる
うえまほりぬれにわゆのう
えにまえくわくわくはやゆ
うあくとくの黒うなとこのきのゆう方
てゐまれがうれまくわゆれく國
不思御 こゑよひそんとえまくわ
きとみういぬほくがくとくわ
れふくとくすそんじうたれぞ
そくせうれそとくわくわくがたく
ねじとくさんゆのゆをうそがまく
くわう下のゆくゆうをうそがまく
しにわゆくゆくゆくとうそがまく
りとくゆくゆくゆくとうそがまく





かくわんはのすうをあらわすかくわん

